

職員が語る築瀬二子塚
～安中市の古墳時代～

○ 古墳時代の身分序列

古墳時代はおおよそ3世紀中頃から8世紀に至るまでの約550年の期間を指します。この間、日本列島の各地で古墳が造られました。

古墳には様々な形があり、大きく“前方後円墳”、“前方後方墳”、“円墳”、“方墳”の4つに分けられます。古墳の形と規模は古墳に埋葬された被葬者の身分序列を示しており、前方後円墳に埋葬された被葬者が最も身分の高い人であったと考えられています(図1)。

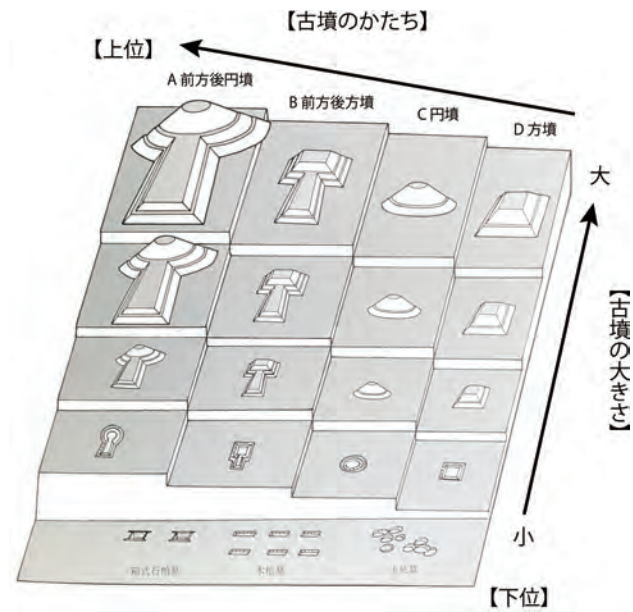


図1 古墳時代の身分編成(都出1989を加筆して転載)

○ 安中における古墳の形と大きさ

安中市域に所在し、発掘などの調査が行われた古墳の規模をまとめると図2のグラフのようになります。グラフを見ると40m以上は前方後円墳、以下は円墳(方墳含む)というようにキレイに分かれていることがわかります。また、図3のように市内の古墳から出土した埴輪の大きさを比較しても築瀬二子塚古墳の埴輪が突出して大きなことがわかります。

このように築瀬二子塚古墳や埴輪の規模が他の古墳よりも一線を画しており、同規模以上の古墳が他に存在しないということが、築瀬二子塚古墳に埋葬された被葬者の身分の高さを示しているのではないのでしょうか。

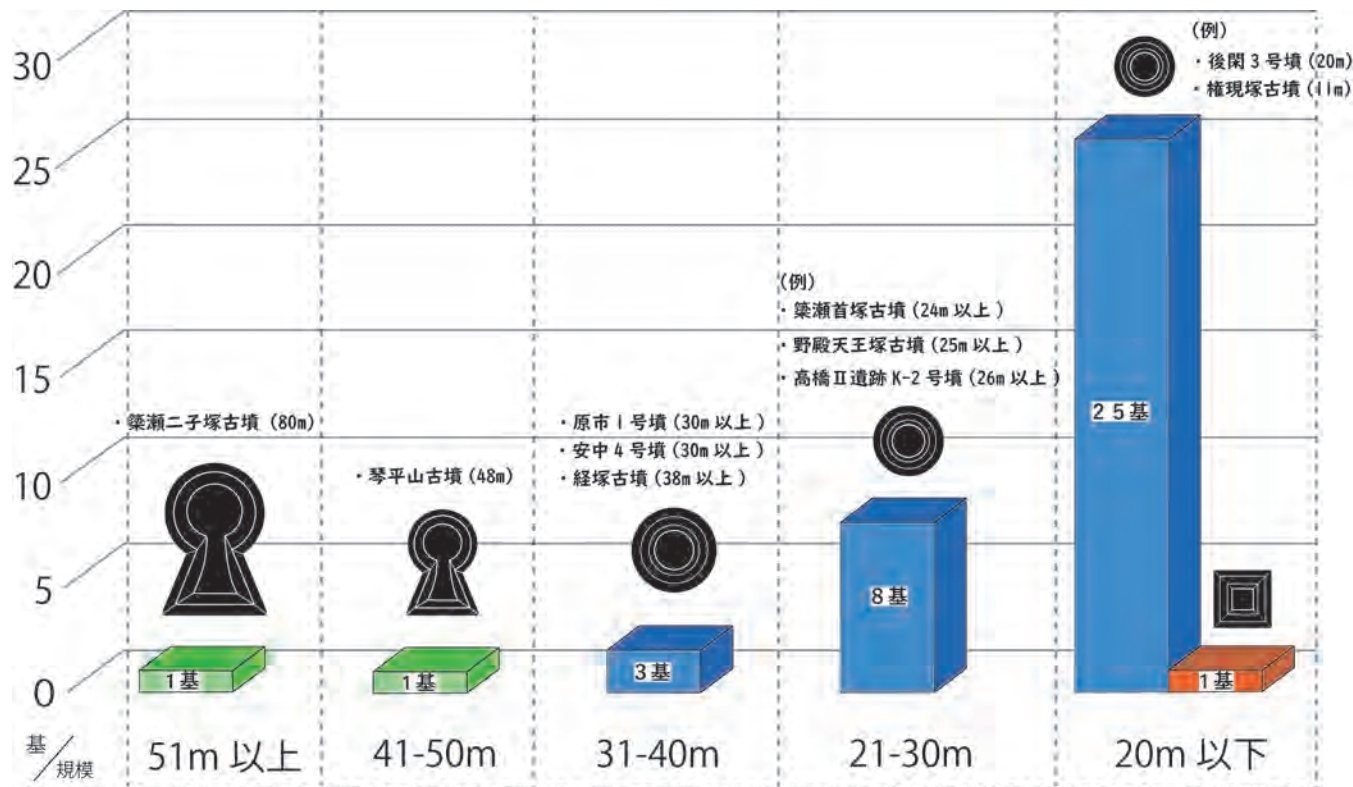


図2 古墳時代安中の身分編成

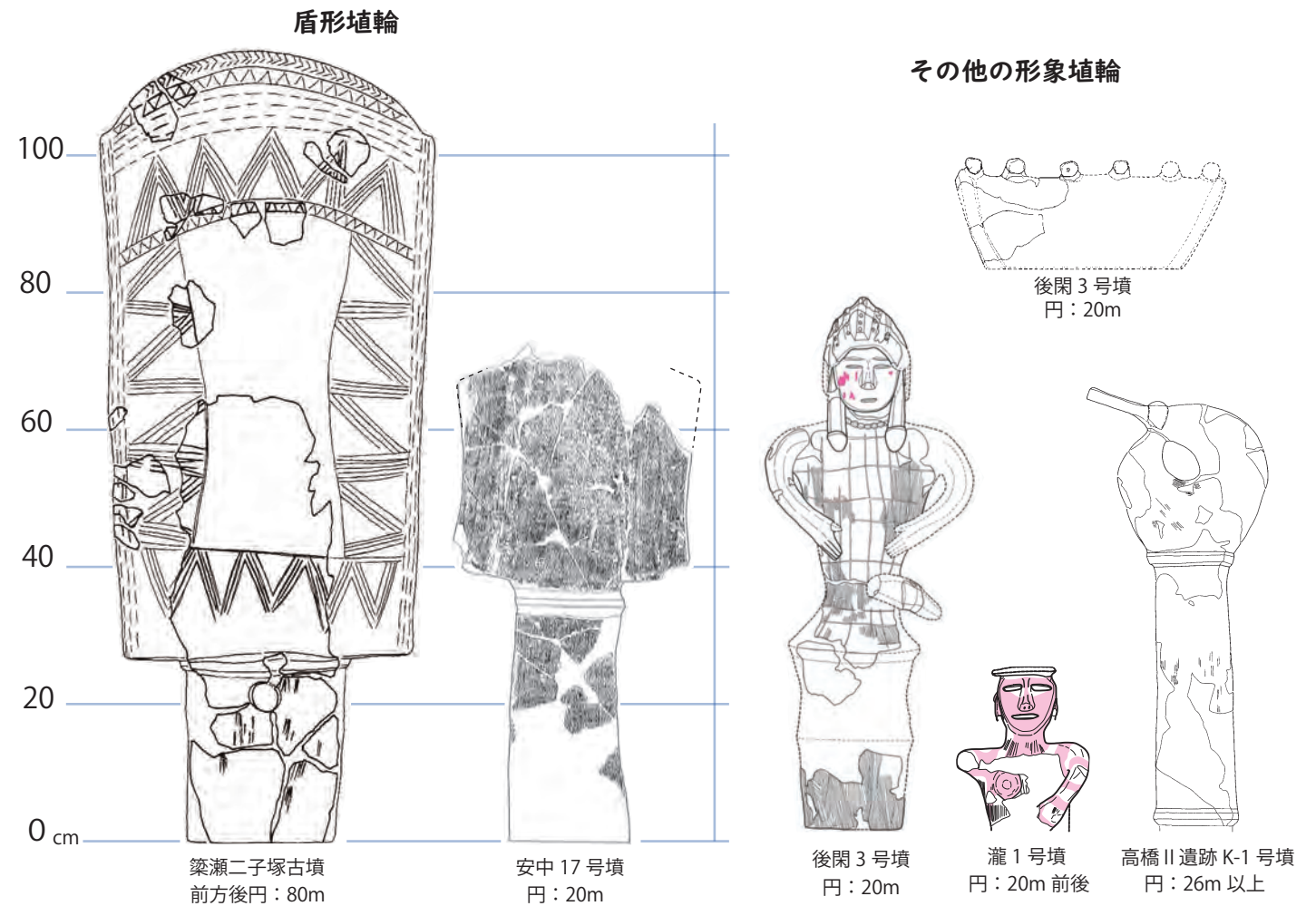
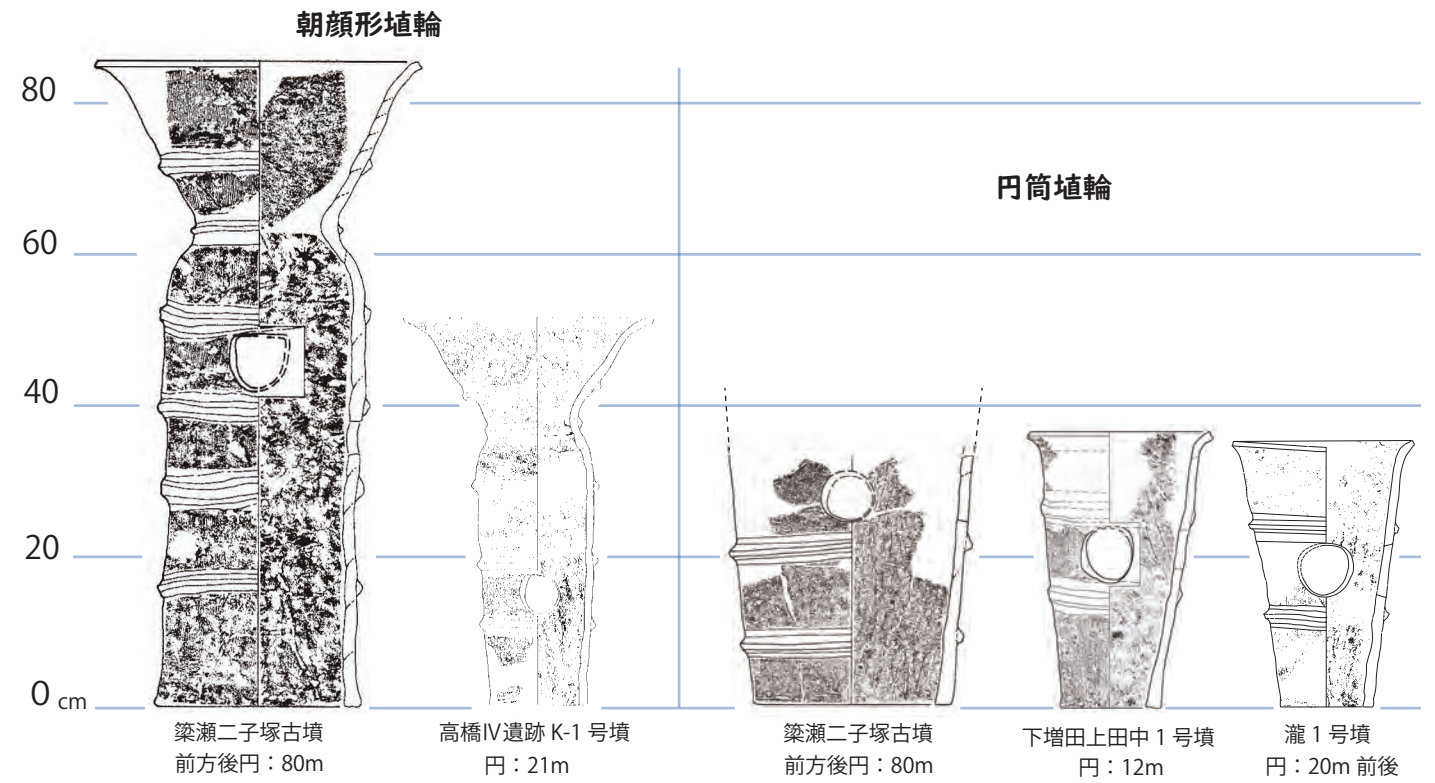


図3 安中市出土の埴輪比較

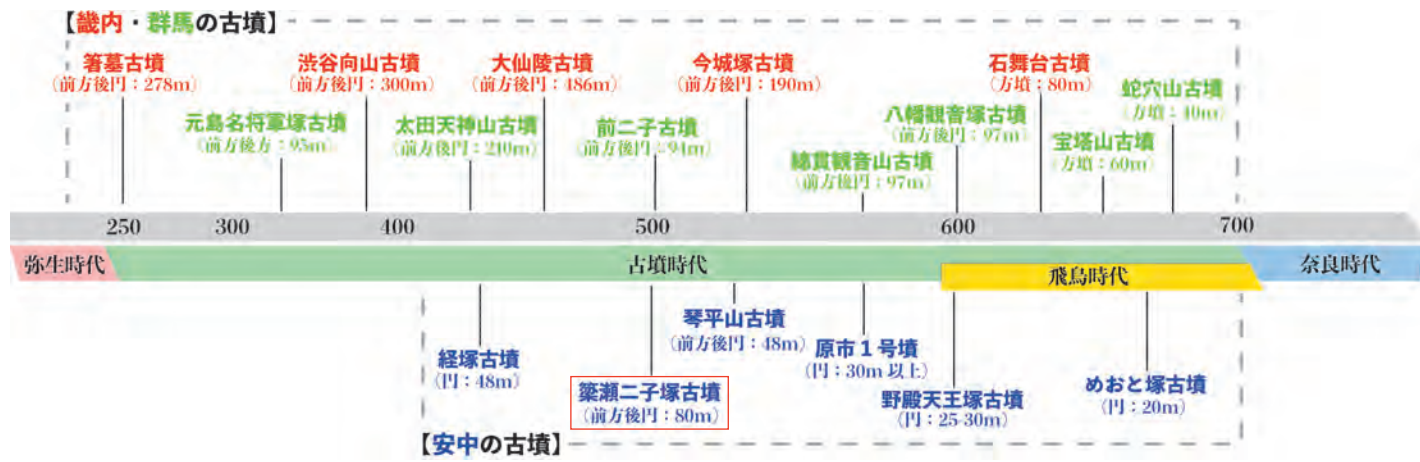


図4 畿内・群馬・安中の古墳年表（代表的な古墳を抜粋）

○ 安中における古墳時代の推移

古墳時代の日本列島における中心地は畿内※にあり、畿内地域では古墳時代が始まった3世紀中頃から、超大型古墳が盛んに造られました。

一方で、群馬県では4世紀になってから古墳が造られます。高崎市に所在する元島名將軍塚古墳は、現在までに判明している最も古い古墳です。群馬県では現在の高崎・前橋エリアを中心に古墳時代の終焉まで大型の古墳が造られ続けました。

こうした中で、安中市域では5世紀になって初めて古墳が造られるようになります。この時に造られた経塚古墳などの古墳は円墳のみで、数も現状4例と極端に少ないことがわかります。5世紀になっても安中市では古墳を造る文化が十分に定着していなかったと考えられます。

こうした状況から、6世紀前後の築瀬二子塚古墳の築造を契機に様相が一変します。築瀬二子塚古墳は市域で初めて登場した前方後円墳であり、その規模も同時期に造られた群馬県内の古墳の中で三本の指に入ります。市域・県域含めて最大級の前方後円墳が造られたことは、安中市域の重要度が増したことを物語っています。

また、築瀬二子塚古墳築造以後、6世紀から8世紀に至るまでに約500以上の古墳が造られるなど、市域の古墳の数が急増します。まさに築瀬二子塚古墳は安中市における古墳時代の転換期を担った古墳であったと考えられます。

※ 畿内 = 現在の奈良、大阪、京都、兵庫の一部を総称した呼び方



経塚古墳



築瀬二子塚古墳



野殿天王塚古墳



図5 築瀬二子塚古墳復元イメージ図

○ 竪穴式石室と横穴式石室

古墳の被葬者を埋葬する主体部は大きく竪穴式石室と横穴式石室に分けられ、一般的には前者から後者へと変化したことで知られています。

竪穴式石室は墳頂部に墓坑を掘り込み、被葬者を納める棺をすえます。そこに被葬者を埋葬し、蓋をして埋め戻します。

一方で、横穴式石室は墳丘の側面に開口部（入口）を設け、玄室と呼ばれる被葬者を埋葬する空間を構築します。被葬者の埋葬後は、石を積み上げて開口部に蓋をします。

両者の大きな違いは、竪穴式石室が一度埋めてしまえば二度と開けないのに対して、横穴式石室は開口部の石さえ取り去れば、再び石室内部が利用可能になる点です。この特性から、後者が採用されてから追葬が可能になったと考えられており、古墳の葬送方式における大きな契機になったと考えられています。

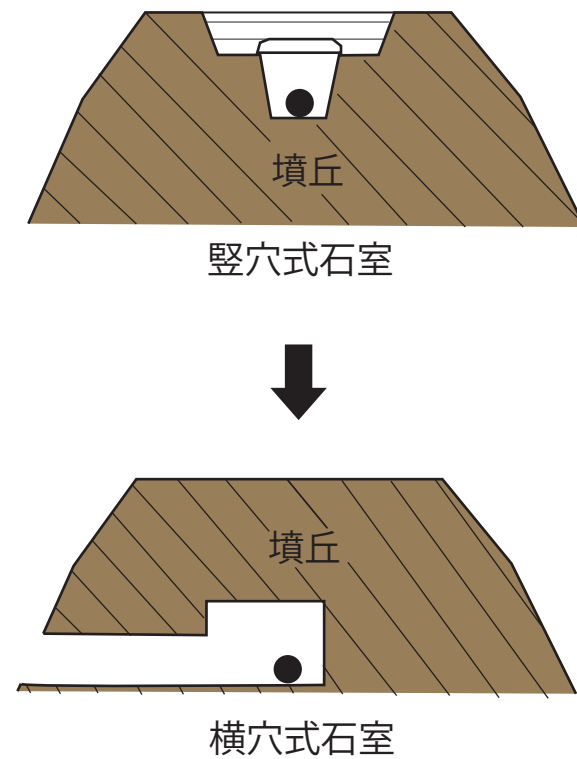


図6 竪穴式石室と横穴式石室の模式図

○ 東日本で最古級の横穴式石室

横穴式石室は6世紀前後に畿内地域の大王墓や首長墓の古墳に採用されるようになると、6世紀代には東日本の古墳にも広く広がります。

5世紀末から6世紀初頭頃に造られた築瀬二子塚古墳の横穴式石室は、非常に狭くて長い羨道（せんどう）を有し、開口部から玄室にかけて階段状に下っていく構造をしています。

玄室の壁面にはベンガラという赤色顔料が塗られており、これは前代の竪穴式石室によく見られた特徴でもあります。

築瀬二子塚古墳が造られた年代や前代墓制の要素を残していること、石室の構造などから東日本で最古級の横穴式石室を有する古墳として評価されています。

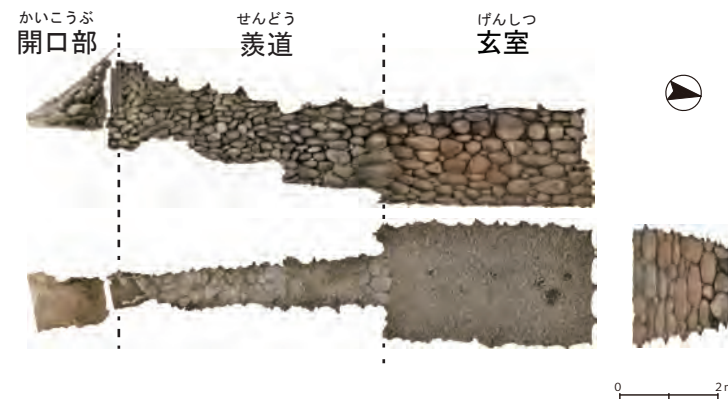


図7 築瀬二子塚古墳の横穴式石室の3D展開図



赤く塗られた石室（玄室）内の写真



図8 築瀬二子塚古墳の副葬品から見た被葬者像

○ 築瀬二子塚古墳の被葬者像

築瀬二子塚古墳からは多種多様な副葬品が見つかっています。それらの中には、当時、日本列島の中心であったヤマト王権との関係性を伺わせる武具や、朝鮮半島に由来を持つ装身具などが含まれています。これら当時の先進遺物を見る限り、築瀬二子塚古墳の被葬者が直接的ないし間接的にヤマト王権や朝鮮半島とのパイプを持った人物であったことがわかります。

一方で、築瀬二子塚古墳の副葬品の中には、滑石で造られた多種多様な模造品（祭祀に使用したと考えられている）があります。滑石製模造品と総称されるこれらの副葬品は、前代（5世紀代）の古墳に頻りに納められた副葬品でした。群馬県は原材料である滑石の産地でもあり、5世紀代には群馬県西部域で滑石製模造品の製作遺跡が盛行します。生産地という素地があったからこそ、築瀬二子塚古墳の副葬品に滑石製模造品が納められたと考えられるのではないのでしょうか。

こうした背景を踏まえれば、築瀬二子塚古墳の被葬者はヤマト王権や朝鮮半島などの先進地とのパイプを持っていただけでなく、伝統的な祭礼行為等も踏襲し、地域に確かな地盤を持った人物であったことが想定できます。その結果が東日本で最古級の横穴式石室を有する築瀬二子塚古墳の誕生につながったのかもしれませんが。

○ 築瀬二子塚古墳の造られた意味

それまで古墳を造る文化が十分に定着していなかった安中市域に、なぜ築瀬二子塚古墳のような大型の前方後円墳が造られたのでしょうか。

安中市は古くから交通の要衝として古代の東山道、近世中山道等の街道が通り、東日本と西日本をつなぐ玄関口として栄えてきました。古代の東山道が成立する前には、古東山道とも呼ばれるルートが成立していたという近年の研究もあります（図10）。

安中市における古東山道は、旧国道18号とほぼ同じくすると考えられており、築瀬二子塚古墳もこれに沿って立地していることがわかります。築瀬二子塚古墳の墳頂部から西側を見ると北信越方面を、反対に東側を見れば関東平野を見通すことができます。この眺望こそ、まさに交通の要衝に造られた古墳であることを示しています。

副葬品からも見たように、築瀬二子塚古墳の被葬者がヤマト王権等のパイプを有していたと仮定すれば、築瀬二子塚古墳は横穴式石室の波及と古東山道の成立という時代の転換期に、畿内のヤマト王権が交通の要衝となったこの地を重視していたことを示唆しているのではないのでしょうか。

このことは結果として古墳時代における安中の発展に繋がり、その後の「交通の要衝としての安中」という現在まで続く流れを形成していきました。現在まで続く安中の原点が築瀬二子塚古墳の築造まで遡るといっても過言ではないのかもしれませんが。

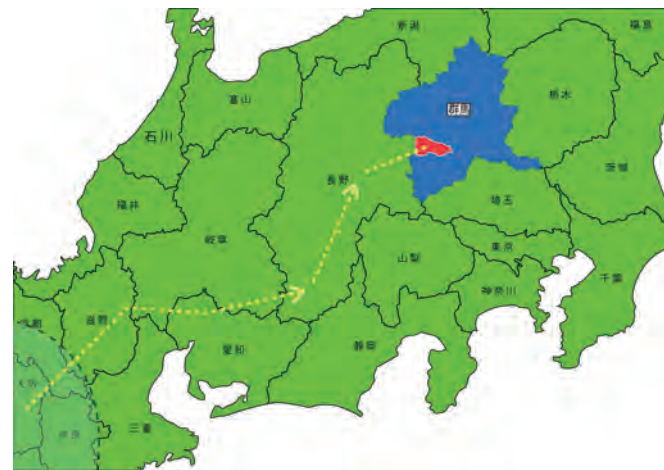


図9 古東山道想定ルート（畿内から安中まで）

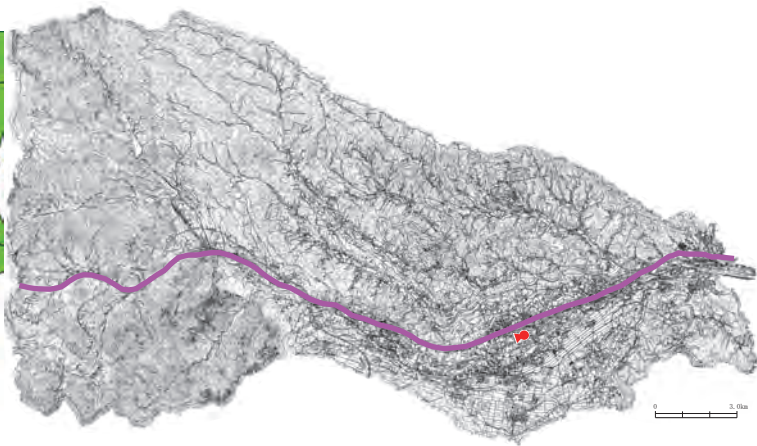


図10 旧国道18号と築瀬二子塚古墳の位置関係



築瀬二子塚古墳（墳頂）から西を望む



築瀬二子塚古墳（墳頂）から東を望む

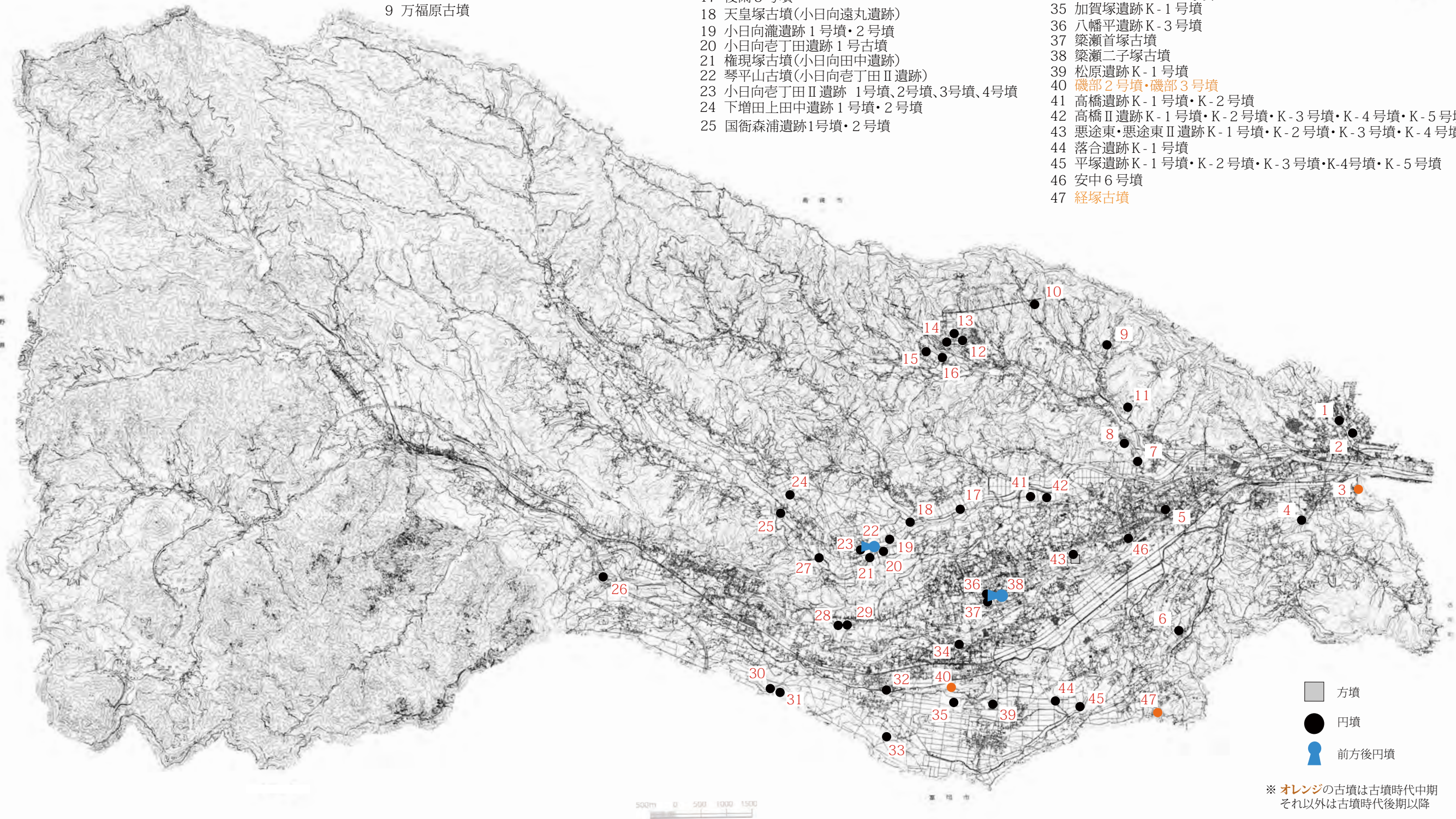
引用・参考文献一覧（50音順）※ 主要なもののみ抜粋

- ・安中市教育委員会 1994『九十九川沿岸遺跡群 3』
- ・安中市教育委員会 2003『築瀬二子塚古墳・築瀬首塚古墳』
- ・安中市教育委員会 2008『安中市の文化財』
- ・安中市教育委員会 2011『安中市遺跡分布地図―市内遺跡詳細分布調査報告書―』
- ・安中市教育委員会 2012『下増田上田中遺跡』
- ・安中市教育委員会 2012『市内遺跡 1 ―八幡平遺跡・向山遺跡・小峰遺跡・安中 17号墳―』
- ・安中市教育委員会 2014『西横野東部地区遺跡群』
- ・安中市教育委員会 2016『安中市指定史跡 築瀬二子塚古墳整備事業報告書』
- ・安中市誌編纂委員会 1964『安中市誌』
- ・安中市市史刊行委員会 2000『安中市史』第一巻 自然編
- ・安中市市史刊行委員会 2001『安中市史』第四巻 原始古代中世資料編
- ・安中市市史刊行委員会 2003『安中市史』第二巻 通史編
- ・安中市ふるさと学習館 2016『築瀬二子塚古墳の世界』
- ・尾崎喜左雄 1966『横穴式古墳の研究』吉川弘文館
- ・高田貫太 2016「築瀬二子塚古墳の副葬品をめぐる地域間交渉」『築瀬二子塚古墳の世界』安中市ふるさと学習館
- ・高田貫太 2021『アクセサリーの考古学 倭と古代朝鮮の交渉史』吉川弘文館
- ・都出比呂志1989「古墳が作られた時代」『古墳時代の王と民衆』講談社
- ・原田道雄 1975「関東地方の初期横穴式石室古墳」『駿台史学』30号 駿台史学会
- ・右島和夫 1983「群馬県における初期横穴式石室」『古文化談叢』10 九州古文化研究会
- ・右島和夫 1994『東国古墳時代の研究』学生社
- ・右島和夫 2001「築瀬二子塚古墳」『安中市史』第四巻 原子古代中世資料編 安中市市史刊行委員会
- ・右島和夫 2003「古墳時代」『安中市史』第二巻 通史編 安中市市史刊行委員会
- ・右島和夫・千賀久 2011『列島の考古学 古墳時代』河出書房新社
- ・右島和夫 2016「築瀬二子塚古墳の基礎調査とその成果」『安中市指定史跡 築瀬二子塚古墳整備事業報告書』安中市教育委員会
- ・森田秀策 1964「第一章 古代」『安中市誌』安中市誌編纂委員会

- 1 屏風岩遺跡K-1号墳・K-2号墳・K-3号墳
- 2 板鼻1号墳
- 3 岩野谷57号墳
- 4 野殿天王塚古墳
- 5 安中4号古墳
- 6 日向後原遺跡K-1号墳
- 7 安中17号墳
- 8 めおと塚古墳
- 9 万福原古墳

- 10 崇徳山古墳
- 11 吉ヶ谷津遺跡1号墳
- 12 北川古墳
- 13 北原古墳
- 14 秋間5号墳
- 15 二軒茶屋古墳
- 16 磯貝塚古墳
- 17 後閑3号墳
- 18 天皇塚古墳(小日向遠丸遺跡)
- 19 小日向瀧遺跡1号墳・2号墳
- 20 小日向老丁田遺跡1号古墳
- 21 権現塚古墳(小日向田中遺跡)
- 22 琴平山古墳(小日向老丁田Ⅱ遺跡)
- 23 小日向老丁田Ⅱ遺跡 1号墳、2号墳、3号墳、4号墳
- 24 下増田上田中遺跡1号墳・2号墳
- 25 国衙森浦遺跡1号墳・2号墳

- 26 新堀東源ヶ原遺跡 1号墳・2号墳
- 27 国衙下辻遺跡1号墳
- 28 原市4号墳
- 29 原市1号墳
- 30 二軒在家原田Ⅱ遺跡K-1号墳
- 31 二軒在家原田遺跡K-1号墳・K-2号墳・K-3号墳
- 32 松井田工業団地遺跡1号墳
- 33 人見向原遺跡K-1号墳
- 34 塩ノ久保遺跡K-1号墳
- 35 加賀塚遺跡K-1号墳
- 36 八幡平遺跡K-3号墳
- 37 築瀬首塚古墳
- 38 築瀬二子塚古墳
- 39 松原遺跡K-1号墳
- 40 磯部2号墳・磯部3号墳
- 41 高橋遺跡K-1号墳・K-2号墳
- 42 高橋Ⅱ遺跡K-1号墳・K-2号墳・K-3号墳・K-4号墳・K-5号墳・K-6号墳
- 43 悪途東・悪途東Ⅱ遺跡K-1号墳・K-2号墳・K-3号墳・K-4号墳
- 44 落合遺跡K-1号墳
- 45 平塚遺跡K-1号墳・K-2号墳・K-3号墳・K-4号墳・K-5号墳
- 46 安中6号墳
- 47 経塚古墳



第11図 安中市の主要古墳分布図